

## 新潟大学医歯学総合病院における 研修歯科医採用試験のオンライン実施の試み

齋藤 豪<sup>1,2)</sup> 佐藤 拓実<sup>2)</sup> 中村 太<sup>1,2)</sup>  
都野 さやか<sup>1,2)</sup> 野村 みずき<sup>1,2)</sup> 石崎 裕子<sup>3)</sup>  
伊藤 晴江<sup>2)</sup> 奥村 暢旦<sup>1,2)</sup> 長谷川 真奈<sup>1,2)</sup>  
藤井 規孝<sup>1,2)</sup>

**抄録：**2021年現在，新型コロナウイルス感染症の拡大防止策として様々なリモート形態が工夫されており，歯科医師臨床研修の準備も例外ではない。今回，新潟大学病院で行ったオンライン研修歯科医採用試験の概要を受験者と評価者に対するアンケート調査の結果とともに報告する。試験は面接，グループ討議，筆記を行い，62名の受験者と18名の評価者が参加した。面接と5,6名で構成したグループによる討議はオンライン会議ツール Zoom<sup>®</sup>（以下 OMT）を用いて行い，3名の評価者がそれぞれの受験者を評価した。筆記試験はインターネット上に共有した問題と回答用紙へのアクセス権を受験生に与え，OMTによる監督下で実施した。試験終了後，受験者，評価者に対して同じ内容のアンケート調査をweb上で行った。オンラインで行った採用試験は予定通り実施することができ，アンケート調査の回答から，ほとんどの受験者，評価者が手順や方法を理解していたことが明らかになった。また，多くの受験者，評価者はそれぞれ自宅，大学から試験に参加しており，対面とオンライン面接に違いを感じなかったとする一方，目線を合わせづらい，臨場感がない等の問題を指摘する意見がみられた。オンライン試験の導入については積極的に検討すべきとのコメントが多く，今回行った方法の改善点に関するものは少なかった。しかし，現時点では，オンライン試験を完全な対面試験の代替にするためにはさらなる改良を要すると考えられた。

**キーワード：**歯科医師臨床研修 採用試験 オンライン実施 アンケート調査

### 緒言

令和3年3月現在，新型コロナウイルス（COVID-19）の感染報告は世界中に認められ<sup>1)</sup>，感染者数の合計は日本の総人口数に迫ろうとしている。特にアメリカ合衆国，ブラジル連邦共和国，インド共和国の状況は深刻であり，この3か国の感染者数は全世界の43%にも達している<sup>2)</sup>。国内においても令和2年1月に一例目が報告<sup>3)</sup>されて以来，感染者数に増加傾向がみられ，令和2年4月には平成24年に公布された新型インフルエンザ等対策特別措置法<sup>4)</sup>の規定に基づいて1度目の新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発令されている<sup>5)</sup>。その後，令和3年3月15日まで447,906名の国内感染例が確認されており<sup>6)</sup>，2度目の緊急事態宣言の解除時期について慎重な議論がなされている<sup>5)</sup>。このような国内の状況は学校教育<sup>7)</sup>や医療の提供<sup>8)</sup>にも大きく影響を与えており，歯科関係においては日本歯科医学会<sup>9)</sup>や日本歯科医師会<sup>10)</sup>を筆

頭にそれぞれの専門学会が感染予防・対策に関する注意喚起を継続している。一方，令和2年3月に文部科学省高等教育局より「令和2年度における大学等の授業の開始等について」<sup>7)</sup>が通知された。さらに6月には文部科学省，厚生労働省より「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校，養成所及び養成施設等の対応について」<sup>11)</sup>の連絡があり，医療職を養成する大学における実習や授業の弾力的な取扱いや個々の学生の状況に合わせた学修機会の確保に関する具体的な取り組み事例が示された。その後，各教育機関ではそれぞれに工夫を凝らしてカリキュラムを実施し，新たな年度を迎えようとしているが，歯科医師臨床研修もその例外ではない。新潟大学医歯学総合病院においても全国的な対応をもとに独自に指定地域を設定し，職員および患者の往来を極力控えるなどの対策を実施してきたが，例年，研修歯科医採用試験には全国各地からの応募がみられるという課題を抱えていた。そこで，令和2年8月末に新潟大学医歯学総

<sup>1)</sup> 新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔生命科学専攻歯科臨床教育学分野（主任：藤井規孝教授）

<sup>2)</sup> 新潟大学医歯学総合病院歯科総合診療部（主任：藤井規孝教授）

<sup>3)</sup> いしざき歯科

<sup>1)</sup> Division of Dental Clinical Education, Department of Oral Biosciences, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences (Chief: Prof. Noritaka Fujii) 2-5274 Gakkochodori, Chuo-ku, Niigata-shi, Niigata 951-8514, Japan.

<sup>2)</sup> General Dentistry and Clinical Education Unit, Medical and Dental Hospital, Niigata University (Chief: Prof. Noritaka Fujii)

<sup>3)</sup> Ishizaki Dental Clinic

合病院令和3年度研修歯科医採用試験をオンラインで実施した。本研究では、オンラインによる採用試験受験者および評価者を対象にアンケート調査を実施し、実施状況と課題を明らかにすることを目的とした。

### 対象および方法

面接、グループ討議、筆記試験による研修歯科医採用試験をオンラインで実施し、試験終了後に受験者62名と評価者18名に対するアンケート調査を行った。試験実施に先立ち、受験者にGoogleアカウントの取得を求め、電子メールの着信テストを行った。その後、専用のGoogleグループを作成し、試験に関する事前連絡（推奨されるインターネット環境を含む）や説明資料の配付を行った。また、受験者のインターネット環境を確認するために、試験日までに3回の通信テスト日を設定し、映像や音声の確認とともに使用ツールの操作方法に関する説明を行った。さらに、それぞれの受験者の連絡先住所に割り印を押した受験票を送付し、受験時にはその受験票をカメラに提示できるように指示した。一方、模擬試験を準備し、評価者に対してもオンライン評価の操作確認を行った。各試験の評価は従来本院が行ってきた評価基準に基づいて行うこととし、受験環境は評価の対象外とした。以下、それぞれの方法について記す。

#### 1. 面接試験

受験者62名を1グループにつき10、11名の6つのグループに振り分け、全6グループ同時に実施した。面接にはオンライン会議ツールZoom<sup>®</sup>（以下OMT）を使用し、3名の評価者による10分間の面接を行った。対面での面接と同様、受験者は事前に連絡を行ったミーティングID、パスワードを使用して指定時刻までにミーティングルームに入室し、待機するよう指示した。各グループの3名の評価者から責任者を1名選出し、責任者がミーティングルームの設定、受験者の入室許可や時間の管理を行った（図1）。入室を許可された受験者には最初に受験票を画面に提示してフルネームで名乗ることを求め、評価者が手元の写真付き受験票と照会して本人確認を行った後、面接試験を開始した。インターネット回線のトラブルについては、通信が途絶えた後、概ね3分以内に再接続することができればそのまま面接を続行する、必要に応じて切断時間を考慮して面接時間を延長する、のように対応することとした。

#### 2. グループ討議試験

面接試験同様、OMTを用いて受験者を5、6名ずつの12グループに分け、6グループ同時進行を2回実施した。試験時間は45分間とし、与えられたテーマについてプロダクトを作成する作業を課題とし、グループ内で討議を行うそれぞれの受験者を3名の評価



図1 面接試験の様子（評価者側から）

者が評価した。討議はグループ内で司会を決めて進行することとし、プロダクトは評価責任者がミーティングルーム内に共有したホワイトボードに作成するよう指示した。グループ討議の進め方に関する説明は、予め作成したナレーション付きのパワーポイントファイルを共有提示することによって行い、討議テーマはこの時に開示した。グループ討議中、評価者はカメラ、マイクともオフにして評価を行い、プロダクトの内容は評価の対象外とした。

面接試験、グループ討議の評価は受験番号を記入した追記可能なPDFファイルを用いて行い、評価者にそれぞれの試験終了後にメール添付で提出することを求めた。

#### 3. 筆記試験

事前準備として、パスワード付きPDFファイルで作成した試験問題をGoogleドライブにファイル共有し、解答用紙をGoogleフォームで作成した。筆記試験は受験者を10、11名の6グループに分けて行い、ミーティングルーム内でカメラをオンにした状態で受験することとした。筆記試験は受験者が一人で解答することとし、他人に協力を求めている様子がうかがえる場合には不正行為とみなすこと、問題および解答用紙にアクセスするためのURLは試験開始10分前にGoogleグループへのメールで連絡することを事前に周知した。ミーティングルームは評価者のうち1名が設定し、試験監督を務めた。試験時間は60分間とし、開始時にグループ討議と同様の説明を行い、問題ファイルを開くためのパスワードを開示した。試験中、スマートフォンの利用は禁止したが、webカメラのないデスクトップPCやタブレットPCで問題、解答を開いて受験する場合に限って利用を許可した。

#### 4. アンケート調査

アンケートによる調査は受験者、評価者とも同じ内

容について行った。すなわち, ①試験の手順や方法の理解, ②対面形式での面接試験と OMT 面接試験の比較, ③インターネット環境等の準備, ④受験/評価した場所, ⑤オンライン試験導入の継続的な検討, ⑥改善点に関する質問とそれぞれの回答選択肢, 理由記載欄を準備した。アンケートの回答用紙は Google フォームで作成し, Google アカウントによるログインを回答条件とした。アンケートの説明には, 結果については個人情報削除の上で学会発表や論文投稿に使用することを明記し, 同意する場合にのみ回答することを依頼した。

結 果

1. 採用試験の運営

面接, グループ討議, 筆記試験とも通信障害による中断などの大きなトラブルもなく終了し, 予定通り令和3年度新潟大学病院研修歯科医採用試験を実施することができた。

2. アンケート調査結果

1) 回答数および回答率

受験者62名のうち56名から回答が得られ, 回答率は90.3%であった。評価者については18名すべてが回答した。

2) 回答結果

質問①については85.7%の受験者が「よく分かった」と回答しており, 「わからない点があった」は12.5%, 「分からずに困った」は1.8%であった。評価者では88.9%が「よく分かった」と回答しており, 受験者と評価者の大部分は試験の手順や方法について概ね理解できていたことが明らかになった(図2)。回答の理由を尋ねたコメントには, 「事前の説明資料が充実していて分かりやすかった」「操作確認テストでリハーサルができたから」との意見が多くみられたが, 「事前説明資料が複数あり混乱した」という指摘も認められた。質問②では「同じ」または「ある程度同じ」と回答した受験者が69.6%, 評価者が72.3%で

質問1. 試験の手順や方法について理解していただけましたか?

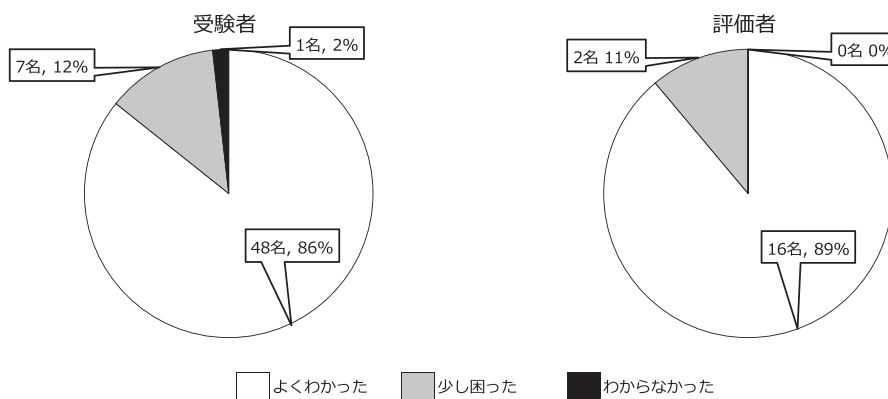


図2 アンケート調査, 質問1に対する回答結果

質問2. ZOOMによる面接試験は通常と比べてどうでしたか?

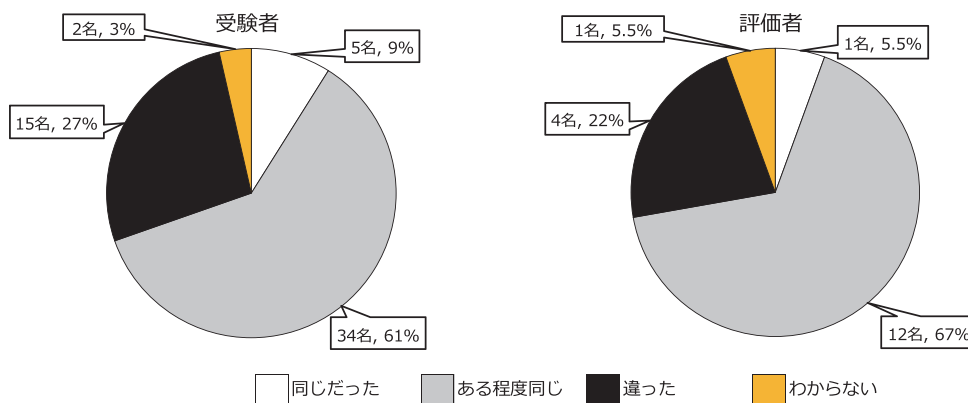


図3 アンケート調査, 質問2に対する回答結果



あった。また、「違う」と回答した受験者は26.8%、評価者では22.2%であり、ほぼ同様の傾向を示した(図3)。「同じ」または「ある程度同じ」と回答した理由には「画面越しではあるが対面と形式は変わらないから」「顔が見えるので対面とさほど変わらない」などが挙げられていた。一方、「違う」の理由の多くには「対面ではないので臨場感に欠ける」「目線を合わせるのに迷った」などのコメントがみられた。質問③に対しては、準備に関して困ることが「なかった」受験者は67.9%、評価者では66.7%で困ることが「あった」または「少しあった」受験者は32.1%、評価者では33.4%であった(図4)。これらの理由として「普段タブレットのみを使用しパソコンの操作に不慣れであった」「既存のインターネット回線の速度に不安がある」等の意見が認められた。質問④については、受験者の82.1%が「自宅」、評価者は88.9%が「大学」と回答した(図5)。受験者の多くは、「インターネット環境があり、必要な周囲環境を揃えやすい」との理由から自宅で受験しており、評価者は「インターネット回線の安定性を考慮して」「困ったときに指示を仰ぎやすい」ことから「大学」で実施したことが示された。質問⑤に関しては、96.4%の受験者と94.5%の評価者が「思う」または「ある程度思う」と回答した(図6)。新型コロナウイルス感染症や他の感染症の流行に備えるための対策として、また、受験のしやすさ等の観点から今後もオンラインでの試験形式は導入すべきとの意見が多く寄せられた。しかし、他方では対面形式での試験と比較して公平性に欠ける、事前に環境を整えなければならない点を問題視するコメントもみられ、可能なら従来通りの対面形式での実施が適切との意見も認められた。質問⑥に対する受験者の意見は「特にない」がほとんどであったが、「残りの試験時間を常時表示すると分かりやすい」「パソコンの性能等で差が出ないような形式にして欲しい」等の要望があった。また、一部の評価者より「同一のパソコンやネット環境を用意して欲しい」「回答フォームが複数あり、入力が行えているか確認する手段もないため改善の余地がある」との意見が挙げられた。

## 考 察

### 1. オンライン試験実施の準備手配、当日の運営について

本院では、一度目の新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が解除<sup>5)</sup>された後も院内関係者および来訪者に対する移動制限や日常生活を含んだ感染対策の徹底が求められていたが、採用試験は当初の予定通り、8月28日(金)および29日(土)に実施した。説明資料の多さや複雑さに関しては、改善の余地があり、今回の経験を活かすことができると考えられた。ホスト

側に問題がみられなかったことについては、オンライン試験には本学がライセンス契約を行ったOMTを使用し、大学のインターネット環境を利用したことが関係していると思われた。リモート化については6月に準備を開始したため、決して十分な期間があったわけではない。しかしながら、当日トラブルもなく、ほぼ予定通りの時間で終了することができたため、事前準備や運営に大きな問題はなかったと思われた。一方、今回の試験は合わせて80名程度の受験者と評価者という比較的小規模なものであったため、得られた知見にはある程度の制限が含まれていると考えられた。

### 2. 面接試験について

今回の方法により、面接試験を行う際、最重要事項となる本人確認は問題なく実施することができた。また、受験者にも評価者にも混乱の様子はみられなかった。これはオンライン授業や説明会が多く行われるようになったために、参加者の多くがOMTの使用に慣れていたことを示していると思われた。オンラインで相手と自然に目を合わせるためには、カメラや装置の改良が必要であり、現時点で対応することは難しいと思われた。しかしながら、それらのコメントは多くの受験者、評価者が相手の目を見て話しをすることの重要性に気づいていることを示していると考えられた。

### 3. グループ討議について

グループ討議ではOMTのホワイトボード共有を評価者が行ったことにより、受験者の設定準備に係る負担をなくし、時間を管理することが容易にすることができたと考えられた。また、1グループあたりの構成人数を5、6名の構成としたことやそれぞれの評価者が画面と音声をオフにして参加したことも、ほぼ対面で行うグループ討議と同様に実施できたことに関係していると思われた。一方、今回はグループごとにミーティングルームを設定したため、試験時間の管理はそれぞれのホスト担当者が行う必要があり、進行管理が複雑化した。さらには、OMTのホワイトボード機能は受験者にとって使いにくい点も挙げられた。このため、オンライングループ討議における意見の共有方法については、さらなる改善・効率化が必要と考えられた。

### 4. 筆記試験について

筆記試験の問題作成に使用した編集制限パスワード付PDF、Googleドライブ上に作成した解答用紙、OMTによる答案作成時の画面監督はすべて想定通りに利用することができた。また、例年同様に試験を実施することができたため、いろいろな制限や条件はあるものの、この方法には一定の利用価値があるように思われた。

### 5. 受験者・評価者アンケート調査の結果について

多くの受験者、評価者が今回のオンライン試験の実施手順や方法について理解していたことが明らかに

質問3. インターネットの準備で困ることはありましたか？

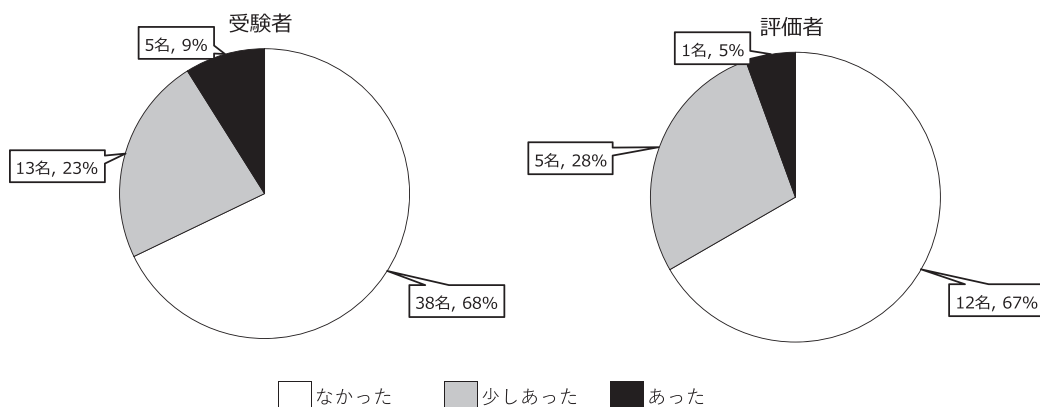


図4 アンケート調査, 質問3に対する回答結果

質問4. 今回試験に参加した場所を教えてください。

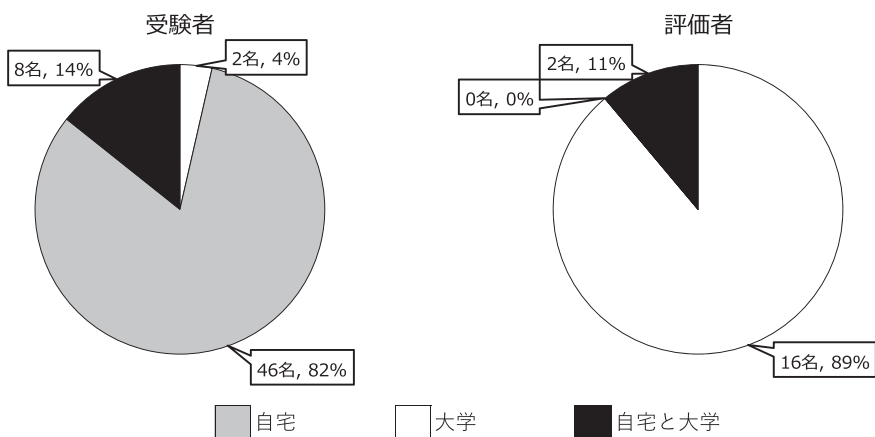


図5 アンケート調査, 質問4に対する回答結果

質問5. 今後オンライン試験を積極的に導入するべきだと思いますか？

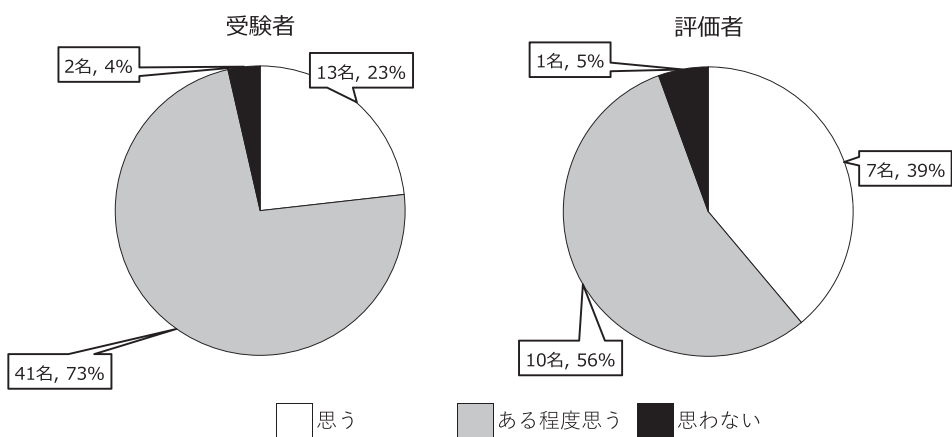


図6 アンケート調査, 質問5に対する回答結果

なった。理由には準備の適切さをあげるコメントがみられた一方、接続、操作テスト日の少なさや説明資料の多さ、複雑さを指摘する意見が認められ、準備、説明に改善の余地があることが示された。OMTによるオンライン面接については、受験者、評価者とも対面とある程度同じであったと感じた者が最も多かった。また、受験者の大部分は自宅で受験しており、インターネット環境の準備に関して困ることはなかったと回答していたため、多くは個人宅に十分なインターネット環境を備えており、オンライン試験を実施するための条件は整っている場合が多いと考えられた。さらに、オンライン採用試験の積極的な導入の是非については、受験者、評価者とも「そう思う」という回答が多く、移動経費や時間を節約できる、移動制限がかかっていても受験を諦めずに済む、現状収束の見通しが立っていないため準備は必要等あげられた理由はいずれも理解できるものであった。

以上のことから、オンライン採用試験の有用性が示唆された。しかし、一部に自宅のインターネット環境やPCの設定や操作に関する不安を感じていたことを示す回答が認められたことから、今後さらに厳しく移動制限が求められる等の状況が生じた場合、公平性を確保する上で深刻な問題になることが懸念された。また、PC操作を求められることや視線を合わせることの難しさがあることから、オンライン試験は緊急避難的措置と捉えていることを示す意見もみられた。全体として、受験者と評価者の回答傾向やコメントは類似していたため、オンライン試験に対する考え方は両者に共通しており、それぞれの立場の違いが結果の差に表れていると考えられた。

令和2年度の歯科医師臨床研修マッチング参加順位登録数<sup>12)</sup>や第114回歯科医師国家試験の受験者数<sup>13)</sup>は例年と大きく異なっていないことから、おそらく令和3年度の研修歯科医採用試験のオンライン化は他施設においても導入されていたと推測される。また、すでに医学<sup>17)</sup>、歯学<sup>18)</sup>、看護学<sup>19,20)</sup>をはじめとする様々な領域において、オンライン授業や実習に関する報告がなされており、参加者によっては発言しやすくなるというメリットがある反面、非言語的コミュニケーションが難しく、今後有効活用するためには工夫を要することが示唆されている。今回行ったオンライン試験の改善点に関するコメントには、理解しやすい説明等、適切な事前準備を求めるものがみられたが、運営方法や内容に関する意見は認められなかった。このため、今回の実施方法は少なからず今後の参考になる点を含んでいるように思われた。しかしながら、受験者、評価者双方のコメントには少なからず対面で行う試験との違いを指摘するものが認められたことや情報のセキュリティが厳格化していることから、現時点

ではオンライン試験を充実させるためには、さらなる準備や改良、工夫が必要と考えられた。

## 結 論

新潟大学医歯学総合病院で実施した面接、グループ討議、筆記試験による令和3年度研修歯科医採用オンライン試験は所期の目的を果たすことができた。しかし、受験者および評価者に行ったアンケート調査の結果から、さらなる効率化や改善を図る必要があり、現状においてオンライン試験を対面試験の完全な代替にするためには解決すべきいくつかの課題があることが示唆された。

本論文の作成にあたり、利益相反事項はありません。

## 文 献

- 1) 外務省. 各国・地域における新型コロナウイルスの感染症危険情報. [https://www.anzen.mofa.go.jp/covid19/country\\_count.html](https://www.anzen.mofa.go.jp/covid19/country_count.html) (最終アクセス日 2021. 6. 30).
- 2) 厚生労働省. 新型コロナウイルス感染症の現在の状況と厚生労働省の対応について. [https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_17376.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_17376.html) (最終アクセス日 2021. 6. 30).
- 3) 厚生労働省. 新型コロナウイルスに関連した肺炎の患者の発生について (1例目). [https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_08906.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_08906.html) (最終アクセス日 2021. 6. 30).
- 4) 厚生労働省. 新型インフルエンザ等対策特別措置法 (平成二十四年五月十一日) (法律第三十一号). [https://www.mhlw.go.jp/web/t\\_doc?dataId=78ab2871&dataType=0&pageNo=1](https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=78ab2871&dataType=0&pageNo=1) (最終アクセス日 2021. 6. 30).
- 5) 新型コロナウイルス感染症対策推進室 (内閣官房). 新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の概要. [https://corona.go.jp/news/news\\_20200421\\_70.html](https://corona.go.jp/news/news_20200421_70.html) (最終アクセス日 2021. 6. 30).
- 6) 厚生労働省. 国内の発生状況など. <https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kokunainohasseijoukyou.html> (最終アクセス日 2021. 6. 30).
- 7) 文部科学省. 大学・大学院・高専に関する情報. [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/coronavirus/mext\\_00016.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/mext_00016.html) (最終アクセス日 2021. 6. 30).
- 8) 全国知事会. 令和2年4月16日 全国を対象とした「緊急事態宣言」の発令を受けて. <http://www.nga.gr.jp/data/activity/request/chijikai/reiwa2nendo/1587041743743.html> (最終アクセス日 2021. 6. 30).
- 9) 日本歯科医学会. <https://www.jads.jp/> (最終アクセス日 2021. 6. 30).
- 10) 日本歯科医師会. <https://www.jda.or.jp/> (最終アクセス日 2021. 6. 30).
- 11) 新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応について. [https://www.mext.go.jp/content/20200603-mxt\\_kouhou01-000004520\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200603-mxt_kouhou01-000004520_2.pdf) (最終アクセス日 2021. 6. 30).
- 12) 歯科医師臨床研修マッチングプログラム 2020. マッチング参加者数令和元年. <https://drmp.jp/> (最終アクセス日 2021. 6. 30).
- 13) 厚生労働省. 第114回歯科医師国家試験の合格発表について. <https://www.mhlw.go.jp/general/sikaku/successlist/2021/siken02/about.html> (最終アクセス日 2021. 6. 30).
- 14) 小曾根早知子, 佐藤菊枝, 前野貴美, 高屋敷明由美, 鈴

- 木將玄, 他. ビデオ会議システムを用いたSPコミュニケーション実習. 医学教育 2020 ; 51 : 248-249.
- 15) 坂本信之, 服部 稔, 粟井和夫, 蓮沼直子, 池上浩司. COVID-19 パンデミック下における広島大学の解剖実習. 医学教育 2020 ; 51 : 250-251.
- 16) 民谷健太郎. オンライン臨床実習の実践報告～教員の時間的コスト・労力的コストを抑える工夫～. 医学教育 2020 ; 51 : 252-254.
- 17) 井上和興, 李 瑛, 紙本美菜子, 今岡慎太郎, 孫 大輔, 他. パンデミック下でのオンライン実習—鳥取大学医学部地域医療学講座の場合—. 医学教育 2020 ; 51 : 298-300.
- 18) 鈴木一吉. Microsoft 「Teams・OneNote・Forms・Stream」を利用した歯学部5年生対象オンライン臨床実習の試み—オンライン実習及び小グループ討論に対する学生の感想—. 医学教育 2020 ; 51 : 531-533.
- 19) 中村喜美子, 井上佳代, 大西和子. 成人看護学(慢性期) オンライン実習の試み(解説). 看護教育 2021 ; 62 : 50-55.
- 20) 長 聡子, 西村春香. 認知症高齢者グループホーム実習をオンラインで補完した看護教員の試みとオンライン実習を通して得られた課題. インターナショナル Nursing Care Research 2020 ; 19 : 31-41.

#### 著者への連絡先

藤井 規孝

〒951-8514 新潟県新潟市中央区学校町通二番町 5274 番地

新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔生命科学専攻

歯科臨床教育学分野

TEL 025-227-0990

E-mail : norisuke@dent.niigata-u.ac.jp

A trial implementation of online employment exam for  
prospective trainee dentists at Medical and Dental Hospital Niigata University

Go Saito<sup>1, 2)</sup>, Takumi Sato<sup>2)</sup>, Futoshi Nakamura<sup>1, 2)</sup>,  
Sayaka Tsuzuno<sup>1, 2)</sup>, Mizuki Nomura<sup>1, 2)</sup>, Hiroko Ishizaki<sup>3)</sup>,  
Harue Ito<sup>2)</sup>, Nobuaki Okumura<sup>1, 2)</sup>, Mana Hasegawa<sup>1, 2)</sup>  
and Noritaka Fujii<sup>1, 2)</sup>

<sup>1)</sup> Division of Dental Clinical Education, Department of Oral Biosciences,  
Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences

<sup>2)</sup> General Dentistry and Clinical Education Unit, Medical and Dental Hospital, Niigata University

<sup>3)</sup> Ishizaki Dental Clinic

**Abstract :** In 2021, there are various developments or applications of remote form aimed to control COVID-19 infection involving a preparation of postgraduate dental clinical training. Medical and Dental Hospital Niigata University carried out an online employment examination for prospective trainee dentists and questionnaire survey for all participants. 62 candidates and 18 raters participated online exam such as interview, group discussion and written test. 3 raters evaluated interview to each candidate and discussion at each group composed with 5 or 6 candidates in the virtual room provided by online meeting tool Zoom<sup>®</sup> (OMT). The access key for the exam question and the answer sheet shared on the internet was given to candidates to take online written test. The written test was also performed in the virtual room and supervised by a proctor. After finishing the exam, the URL to open a questionnaire showed to all participants and asked to answer. As the result the online employment exam succeeded to accomplish its purpose and it was revealed that many participants had understood the concept or procedure. Majority of candidates and raters attended the exam at home and workplace, respectively. The reply comments to the questionnaire survey appeared some of them did not feel an incongruity to online interview, although there were comments pointed out improvements such as difficulty to have eye contact with opponent or to recognize the presence. The number of comments for the necessity to consider about preparation of online exam positively were major and those for improvement were minor. However, it is necessary to improve the system of online employment exam in order to make it a complete alternative to face-to-face exam.

**Key words :** postgraduate clinical dental training, employment examination, online implementation, questionnaire survey